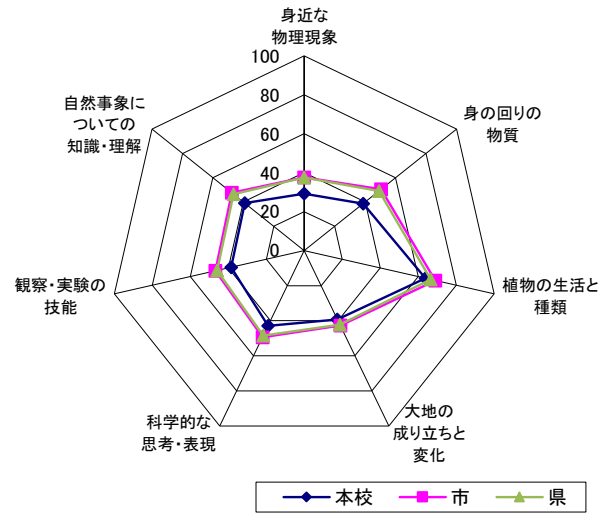


宇都宮市立 宝木 中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	29.2	37.6	37.5
	身の回りの物質	38.7	50.5	49.1
	植物の生活と種類	63.8	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	39.2	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	42.9	49.4	48.5
	観察・実験の技能	38.5	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	39.0	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	市や県と比較して、平均正答率が下回っている。 ●光の進む道すじを記述する内容や、凸レンズがスクリーン上に映す像についての内容が、県や市と比較して特に平均正答率が低く、光の進む道すじについては、無回答も目立った。 ●グラフを読み解く問題や圧力の計算に関する内容が、正答率が低く、無回答も多く見られた。	・公式を用いて計算練習する時間や、作図などをする時間を十分に確保して、それらの基礎やパターンを定着させる。 ・授業の中で、自分の考えを記述し、表現するような活動を多く取り入れ、記述した内容を生徒同士で話し合ったり、確認し合ったりさせることを通して改善を図る。
身の回りの物質	県や市と比較して、平均正答率が大きく下回っている。 ○水溶液の質量パーセント濃度を求める問題は、正答率が市の平均とほぼ同じで、県よりも高かった。 ●物質の密度に関する内容は、全般的に平均正答率が低かった。また、密度、濃度を計算によって求める内容は、無回答率がとても高かった。	・濃度や密度など公式を用いた計算の問題演習や基本的な計算の確認などをとり入れて、向上できるよう支援する。
植物の生活と種類	他の領域と比較すると、平均正答率はとても高かったが、市や県よりも下回った。 ○顕微鏡の適切な操作方法に関する問題は、市や県よりも平均正答率が高かった。 ○「生物の観察」の内容については、平均正答率が市や県の平均を上回った。 ●簡単な記述で答える内容が、平均正答率が低かった。	・一問一答の語句の暗記を大切にしながら、簡単な説明や、短文で記述するような内容も時間をかけて練習させる。 ・観察・実験の結果から、考察として導き出されることは何なのかを、条件の比較から関連づけられるように意識させる。 ・表などを活用して分かりやすくすることで理解を深めさせる。
大地の成り立ちと変化	市や県と比較して、平均正答率が下回っている。 ○花こう岩のでき方や化石の種類の名称に関する問題については、平均正答率が市や県よりも高かった。 ●地震の発生から到達するまでの時間を算出する問題についての正答率が低かった。 ●化石のでき方や分類の条件に関する問題についての正答率が低かった。	・重要語句について、その名称と意味や条件などのつながりが曖昧ようなので、語句を覚えるだけでなく関連事項についてもきちんと整理するように指導する。 ・問題演習を重ねてその関連パターンを理解できるように反復学習を工夫させる。